

---

# MIRROR'S EDGE -ソラヲカケルショウネン-

fordforest

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

MIRROR · S E D G E · ソラヲカケルシヨウネン ·

### 【Nコード】

N8480K

### 【作者名】

f o r d f o r e s t

### 【あらすじ】

少年は空にあこがれていた。女は空を跳んでいた。  
少年は何時しか退屈な日常から抜け出したいと考えた。  
そして世界が広がる時、新しい一歩を踏み出し始める。

**Prologue 退屈な日常と刺激的な非日常の境界（前書き）**

オリ主です。ミラーズエッジです。文章がヘタです。気になってしまう人はブラウザのバックボタンを押してください。

Prologue 退屈な日常と刺激的な非日常の境界

いつの頃だろうか。

この街の歪さに感じたのは。

この街は綺麗だ。

だけど綺麗過ぎる。

過剰なまでに綺麗過ぎる。

「これからも街の……」

行く先々でウザイほど聞こえる政府のプロパガンダ。

これが世界なのだろうか？

これが街なのだろうか？

これが俺のいる場所なのだろうか？

わからない。

わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。  
 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。  
 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。  
 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。  
 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。 わからない。



わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。  
わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。  
わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。  
わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。  
わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。  
わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。  
わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。  
わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。  
わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。  
わからない。わからない。わからない。わからない。わからない。

それでも、また今日も同じ一日が始まる。

「またランナーの逮捕者が現れ……」

わからないといえばランナー規正法、なぜ規制するのか理解できない。  
ふと、空を見上げる。

「え？」

そこにはビルとビルの間を跳び越す人影があつた。それと銃声。

「ラン……ラン……」

俺は見た。

ランナーを見た。

まるでこの街の”型”を無視するかの用に平然と跳ぶランナー。

空を、街の上を庭のように自由に、道無き道を突き進むランナー。

俺は、この退屈な日常から抜け出せるなら、あんなランナーになれるのだろうか？

今はまだわからない。

Prologue 退屈な日常と刺激的な非日常の境界（後書き）

やっちゃったZE

わーい、計画性もへったくれもねえよ！

というわけで誰もやっていない（はずの）ミラーズエッジの二次創作でっせー。

いやはや、ミラーズエッジはデザインとゲーム性が好きだよ。

あとスピード感と跳躍感がすごくいい。

で、何を思ったのかコレ、勢いだけでやっちゃったよ。

広げた風呂敷、たためるのか俺？



CHAPTER 1 : 偽りの日常から飛び出すとき & It : Act : 1 &gt;

オリキャラ主人公です、ミラーズエッジの二次創作です。

ある日の事。

俺はいつもの仕事をしていた。

無意味な作業、無意味な指示、この都市でこの仕事の必要性があるのかすら疑問に思える。

それに比べれば、ランナーは憧れの存在として俺の中で徐々に大きく膨らんでいった。

ランナーはクライアントの依頼で物を運ぶ。クライアントは政府から隠れている反乱分子が多い。

そして、ランナーにとつて道はどこにでも存在している。ビルからビル、地上から屋上、屋上から地上、壁から壁、ありとあらゆる道がランナーの通り道だ。

いつしかランナーは憧れの存在から目標の存在へと変化していた。俺は空にあこがれ始めた。

空を駆けたい。その気持ちが芽生え始めた。

「シヨウ、聞いているか？」

同僚のコータが俺に声をかけてきた。まあな、いつものように返事を返す。

「またか、いつもお前って上の空だよな」

コータはケタケタと笑いながら俺の頭を小突く。

「ああ、空を見ていたからな」

「空？」

ああ、とだけ俺は答える。空を眺める。ビルとビルの間には俺達がいる。俺達は清掃局のバイトをしている。この街は塵一つ無いクリンな街。かつて、この街がまだ工業都市だったころ薄汚れた街だったが活気に溢れていた。しかし数年前の暴動を機に、街は急速に変貌を遂げた。見た目は確かに綺麗だ。しかしどこか活気が無い。まるで閉鎖された時間の中に取り残されるような、そんな感じがす

る。だけど、そんな中で俺は見た。空を跳ぶ女を俺は見た。ビルとビルの間を飛ぶ。道なき道を走り抜ける、政府が規制の対象として追っているランナーと呼ばれる者だ。街のほうでは政府がランナー規制法を掲げているがランナーたちはそれを承知の上で自由な道を駆け抜ける。

まるで、止まった時間の中で唯一動いている歯車のように……。

俺はあこがれていた。この退屈な日常から抜け出せるのであればランナーもいいかもしれない。(あとで知った事だが、あの時見た女の名前はフェイスと言う、ランナーの中では有名な女性だ)

だけど、俺は今日の前の仕事に集中する。ゴミの収集だ。

「シヨウ、ランナーにあこがれのは止めておけ、S W A Tの奴らに殺されるぞ」

S W A T、元々は警察の特殊部隊だったが今では警察からC P Fに変わり、政府の犬としてランナーを取り締まっている。俺達の仕事は政府の正式な仕事の一つではあるが、一歩間違えば俺達もS W A Tに取り押さえられる。俺達に自由を与えないかのように彼らは日々ランナーを捕まえている。

「こんな日常、抜け出したい」

俺は思わず呟いた。空を見上げる。なんて自由な空間なんだろう。空を自由に駆け巡れたらどれだけ素晴らしいのだろう。俺は、思っていた。

「おい、シヨウ、アレ見ろアレ」

コータが俺の背後に指を刺していた。俺は思わず背後を見た。そこには一人の少女が二人のS W A T隊員に追われていた。

「どうする？」

「俺は助けるがコータは？」

「悪いがパスだ、捕まりたくない」

コータの判断は街の住民としては正しい。誰だって人生を牢獄の中で過ごしたくない、ましてや死んで人生をおしまいにしたくないはずだ。

「コータ、生きて会えたらまた日常を楽しもう」

俺はそういって少女の元へ向かう。

「お、おいシヨウウ！」

もう俺の耳にコータの声は聞こえない。今は目の前に集中するだけだ。

## CHAPTER 1：偽りの日常から飛び出すとき&It;Act・1&gt;

Prologueからだいぶ間が空いてしまった。俺の執筆速度と文章力と発想力の無さに絶望したっ！

さて、冗談はさておいてMIRROR'S EDGEというゲームはFPSなんだけどSの要素はほとんど無いゲームです。どちらかといえばアクションゲームの要素がかなり強い。パルクールをうまく表現できるかどうかがこの作品の重要な点だなあ……。

去年当たりに一度クリアしたけど今もう一度攻略しているところ（Xbox360版です）

さて<Act・1>の時点でオリキャラが既に3人も登場して俺の計画性の無さが露呈したわけだが……ノンストップで立ち止まれないぐらいの勢いでやっていこう。うんそうしよう。

次回は当然CHAPTER1のAct・2です、当然だよな？ね？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8480k/>

---

MIRROR'S EDGE -ソラヲカケルショウネン-

2010年10月12日18時53分発行